

ホーム名:グループホーム(グループホームはなぞの)				
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価
			実施状況	実施状況
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基に年度初めに職場内で議論し職場としての目標設定を行っている。職場の目標は毎月の会議内で実践方法等話し合っている。	法人理念が事業所の理念であり、常に意識できるよう名札の裏に入れ、職場にも掲示している。年度始めの頃には、職場会議実行計画書案が出されて全員で討論、各個人の目標設定をする。毎月の職場会議で自己評価を確認し半年毎に職場評価を行っている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域包括、地域代表、利用者家族、民生委員さんと2カ月に1度の運営推進会議をおこなっている。地域の医療介護の事業所を地域住民に知ってもらいイベントに今年度から少数の利用者に参加して頂いている。	感染防止対策をとっている診療所の主催する地域イベントに、十分に距離をとった上で花火、健康まつりを見物という形で参加されている。5類になったとはいえ、コロナ禍はまだ残存している為、地域との交流は部分的なものに限られている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	医療生協の支部運営委委員会に定期的に参加して、健康チェックなど医療生協の組合員さん向けの介護相談をおこなっている。	
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では季節行事や事業所での取り組みの報告と振り返りを中心におこなっており、認知症研修の様子などを報告している。	会議には民生委員、地域包括支援、生協など外部からも参加され、事業所内の居状況、経過、行事予定等を聞かれ質疑応答がなされている。利用者に対する支援のあり方についての助言以外にも、生協代表者の提案である『車中からの花見』が実施された事もある。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	新診療所建設のために懇談会を開き、こちらのGHの図面のチェックやケアへの思いを積極的に伝え、許認可に向けて協力関係を築くよう取り組んでいる。	GH運営や規定上で疑義があれば、事業所だけの判断だけではなく、市の法人・高齢者施設課に相談して助言を求めている。市や地域包括からの福祉関係の情報発信には積極的に取り組まれており、協力関係の維持を図っている。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止のための指針を作成し、年2回職員学習を行っている。玄関の施錠は以前は常時施錠行っていたが、家族・職員と協議し現在は日中は開錠している。身体拘束委員会は2カ月に1度おこなっている。	身体拘束廃止のための指針を作成し、年2回職員学習している。2か月毎の身体拘束委員会では、11項目の有無の確認、フィジカル、スピーチ、ドラックロックも行っていない事を確認している。研修に関してはイーラーニングを利用している。新入職者には身体拘束、虐待防止の研修をしている。施錠については日中は開錠するようにされている。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	7月虐待防止研修、3月にアンガーマネジメント研修をおこない、高齢者虐待防止に務め、職員相互に注意しあえる職場環境を整えている。	

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>本人・親族で金銭管理が行えない利用者について、社協や福祉事務所と連携し成年後見制度の手続きを行った。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に説明を行なっている。改定の内容については都度説明し同意をいただいている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>3ヶ月に1回家族会議を開催し意見交換を行なっていたが、コロナ禍のため中止している。2カ月に1回の運営推進会議で出席した家族様、担当家族様の電話での聞き取りを反映するようにしている。アンケートに取り組み、アンケート結果を職場内で確認・討議行なっている。</p>	<p>家族、後見人を年6回の運営推進会議で担当制にして意見要望を話してもらっている。不参加の場合も電話での聞き取りをされている。意見要望は会議で検討され反映に努められている。家族会議は中止状態であるが、開催時には意見交換されて反映に努められている</p>	
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>職員との個人面談の機会を設け意見や提案を確認している。また毎月の職場会議内でも業務改善について意見交換を行う場を作っている。</p>	<p>職員個人との面談の機会を設けており運営に関する意見や提案を聞かれている。年に2回は目標達成についての評価の話し合いもされている。毎月開催される職場会議では業務改善について、参加職員全員と調整しながら意見交換をされている。</p>	
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>当法人は一定の条件の職員は労働組合の加入が義務であり、給与、賞与、条件面は労働組合と経営側との協議の基決定がされており、交渉の場へ各人が参加し意見訴えをできるようになっている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>介護職員としての共通の学習をネット学習などを活用し行い、各事業所の特色にあった学習は職場内にて実施している。個別の学習に関しては面談を通じ確認し、随時参加を行なっている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>法人内のグループホームとの定期的な会議を行い意見交換等行っている。</p>		

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>初期には特に入居前の生活に可能な限り近づけられるよう情報収集を行い、居室の環境設定や、職員のケア方法等を決定している。また家族面会等も活用し、安心できる環境の構築を行っている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>細やかな相談や報告を行ったり、本人との面会の場を多く持ってもらいなど生活が見えるよう働きかけを行っている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談の段階で、他サービスなども含め提案を行い必要であれば、担当者へ紹介も行っている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員が全ての家事を行なうのではなく、できる部分はご本人に依頼し、職員が補助をする形でかわりを行なっている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>こまめな報告・連絡・相談を行い、家族の意向も確認しながら、必要に応じては受診の付き添いなど依頼し、協力関係を作っている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>時間や空間の制限はあるが、親族以外の友人との面会もおこなっている。</p>	<p>馴染みの関係は周知されているが、現況ではコロナ禍感染防止対策の為に面会には事前予約が求められている。当日は検温、マスク着用、15分以内、飲食の禁止、などの条件求められている。</p>	
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>日常的に入居者同士の交流の場が多く、相互に関係しあって生活が送れるよう支援を行っている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービス終了時に、ホームでの様子や変化を書面にまとめ、ご家族へ手渡している。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に生活に関する希望・意向を確認している。本人からの聞き取りが難しいときには家族や、職員で本人が何を望むかも議論して、可能な限り本人の意向に近づけるよう努めている。	ケアプラン作成時に本人に話しかけて傾聴し希望や意向を把握する。結果は職場会議で共有を図る。傾聴が困難な場合は入所時に聞き取られた情報を参考にしたり、家族に相談して意見を聞かれている。	利用者の思いや意向は、入所時から変化も考えられるので、定期的に聞き取り調査されてはどうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	本人・家族や以前利用していた介護サービスへの聞き取りを中心に把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察と職員間での申し送りで状態の変化などを共有している。毎月の職場会議でひと月の変化を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当スタッフでのモニタリングを行い、計画を職場会議内で検討し、ご家族へ説明を行っている。必要などときには医師・看護師・他事業所の職員へも意見を求め取り入れている。	利用者の各担当者とケアマネが、個人記録表、申し送りノートのモニタリングをして介護計画の作成を進行させるが、医師・看護師・他事業所の職員の意見も聞く場合もある。ケアプランは職場会議で検討する為に提出される。1年間の期間であるが毎月のモニタリングで随時見直しはされる。家族には説明をされ署名を貰われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し情報共有している。毎月の会議で1か月の変化をまとめ、職場内でケア方法など議論を行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況が変わったときには再検討を行い、必要などときには他のサービスも含め提案も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターとの関わりを中心に情報の把握に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同建物内の診療所と連携を図り定期受診を行なっている。また日々の様子や、必要に応じて服薬の変更提案についてホームより情報伝達を行なっている。	利用者本人や家族が入所以前からのかかりつけ医を希望されれば、そのまま継続して、診察できるようようにされている。診察結果は事業所の協力医に報告され職員も共有されている。事業所の協力医は同じ建物の内にあり、2週に毎に往診がなされている。	

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>定期的に看護師が訪問し入居者個々の観察を行ない、訪問がないときにも積極的に相談等もを行っている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>病院、診療所が同一法人内にあるため協力体制はできている。また他院へ入院される際には、入院時から退院まで情報共有を行うよう努めている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した際には早期から家族と医師との話し合いの場にグループホーム職員も同席し、必要な確認・相談を行っている。 また他事業所などに助言を求めると多くの関係で利用者を支える取り組みを行っている。</p>	<p>重度化した場合した場合の対応については、契約時に予め家族に説明されているが、この時点で最終的な話し合いがなされている。家族が看取りを希望されれば医師を通じて検討会議にかけられて決定され、治療入院ならば医師と相談され転院先を紹介されている。</p>	
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時、事故発生時の手順書を作成し、事務所内に貼り出している。学習に関しても取り組んでいる。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回避難訓練を行なっている。東大阪市の基準に対応したマニュアルを作成して運営している。災害避難訓練をおこない、避難経路の確認、地域代表の方との協力も運営推進会議で討議している。夜間想定訓練もおこなっている。おいている。</p>	<p>火災避難訓練、災害避難訓練を分けて実施されて現実に対応されている。火災では夜間想定も実施されており、初期消火、通報の連携、利用者を毛布に乗せて移動の体験をしている。避難経路の確認、保存食の確認をしている。事業継続計画(BCP)の策定は進行中である。</p>	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>全職員で接遇の学習も行っており職員同士でも注意しあうなど適切な言葉掛けや対応を心がけている。</p>	<p>接遇マニュアルは作成されており、基本的な意識形成はできている。イーラーニングを使った研修も受けて実際の支援に繋げている。プライバシー確保では言葉使いからトイレの利用の仕方までこころ配りをされている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>介助時に本人に同意を得て介助を行なうことを基本に本人の意思を確認するように取り組んでいる。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>起床時間や過ごす場所、レクや体操への参加、入浴の実施など本人の希望を優先し対応している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>可能な方は一緒に着替えを準備している。ヘアカットなどは本人が伝えられない方は写真などを使い本人の好みを伝える助けを行っている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>リクエストに応えた食事レクリエーションの実施、テーブル、お盆拭きや、食器洗い、盛り付けを手伝ってもらっている。</p>	<p>給食業者の配達食品を利用されている。利用者の好みに合わせた食事レクリエーション。行事内容に応じた行事食の提供。誕生日には作りのケーキを楽しまれている。普段は可能な範囲であるが、食事の準備や片付けを職員と一緒にやっている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>日々の水分、食事量を記録しており入居者個々に合った食事形態、食事・水分量の支援を行なっている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎日定期的な口腔ケアの支援を行なっている。また家族・本人の同意のもと訪問歯科検診を週1回実施している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを把握し適宜声掛け、誘導を実施している。また、日中と夜間で使用するものを変えるなど自立の為の支援を行っている。</p>	<p>当日の状況をよく観察され一番適切な対応をされるが、基本的には利用者の排泄パターンに従ってトイレ誘導され、立位で排泄できるように支援している。夜間は定期的な見回りで対応されている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>医師と連携し下剤や水分摂取で便秘対策を実施している。日々のケアで腹部マッサージや運動を促すなどしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>時間帯は設定しているが入浴の実施や順番は入居者の希望に沿っている。必要な方は同建物内の機械浴にて入浴している。</p>	<p>事業所として週に2回の入浴の日は設定しているが、利用者の気持ちに沿うようにされており、日時の変更をしたり、対応職員を変えたりする時もある。必要な方は機械浴槽の利用もされている。入浴を楽しんでもらう為に入浴剤の投入をする事もある。</p>	

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>休息、就寝は入居者の希望に沿って支援している。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>医師・看護師・薬剤師と連携し服薬内容の変更など確認し支援をおこなっている。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>一人ひとりに役割を持っていただけるように意識している、また興味のある創作活動や本人の得意なことを発揮して貰う場を意識的に造っている。</p>		
49 18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるよう支援している</p>	<p>コロナウイルスの感染拡大後は外出は控えている。感染前は利用者の希望に沿っての外出は行なえていないが、近所のスーパーなどへ買い物に同行するなどしていた。</p>	<p>コロナ禍がまだ、終焉していない現状では、感染の懸念がある為、不特定多数の人がいるスーパーやレストランへの立ち入りはしない。歩行訓練として、家族の付き添いのもと、自宅まで歩行、感染に留意しながら自宅での水分補給、補食はされている。</p>	
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人でお金を所持している方はほとんどいない。ご家族と相談し、個人で持っている方は雑誌などを職員が買い物代行することもある。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人・家族の希望を確認し援助を行っている。</p>		
52 19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の空間は毎日定期的な清掃と空調管理を行い心地よい空間となるよう務めている。また、季節にあった壁紙や、調度品を置くなど取り組んでいる。</p>	<p>明るい壁の色と木目調の床の色合いが落ち着きを与えている。壁に飾られた季節風の作品が、人懐こさを感じさせてくれる。空間全体が広いいためか車椅子の利用者も通りやすそうである。ソファーや椅子でも自由に座られて、一日ゆっくりと寛げる事ができる共用空間といえよう。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>数箇所に分けてソファーや椅子を配置し、談笑したり、一人でくつろいだりなど活用していただいている。</p>		
54 20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居前自宅で使用していたもの持参していただくよう声掛けを行っている。日々の中で必要と感じたものは家族に依頼し準備していただくなどしている。</p>	<p>利用者のお気に入りの物が置かれており、自分らしさが演出できるようにされている。利用者が居室を空けている時間に換気されている。掃除は行き届いており、清潔で綺麗な生活環境ができている。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下には手すりを設置、各所に明確な表示理解の助けになるようにしている。 職員が出来ることも利用者に依頼し、感謝を伝えるなど意識的に行っている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができていく (参考項目: 9,10,19)	○	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている (参考項目: 9,10,19)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない